

第1学年 国語科学習指導案

1組 計24人(男子10人, 女子14人)
指導者 松山 佑美

1 単元 ちがいを かんがえて よもう(「どうぶつの 赤ちゃん」光村図書1年下)

2 単元目標

- 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
【知識及び技能(2)ア】
- 時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を捉え, 文章の中の重要な語や文を考えて, 選び出すことができる。
【C読むこと(1)ウ】
- 二つの事柄を同じ観点(※ポイント)で比較し, 違いを考えながら読もうとしている。
【学びに向かう力, 人間性等】

3 単元で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

論理的思考力	ライオンやしまうまの大きさや目や耳の様子, えさのとり方などについての言葉や文に着目して, 二つの動物の生まれたときの様子と成長していく様子を捉え, ライオンとしまうまを同じ観点で比べ, 違いを考える力
創造力	同じ観点に沿って比較・分類するという「言葉による見方・考え方」を働かせて, 既得の知識と新たに学んだ知識を相互に関連付け, 概念的な知識「二つ以上の対象を比べて読む読み方」を創り出す力
振り返る力	時間的な順序や事柄の順序に着目して内容の大体を捉え, 同じ観点に沿って文章の中の重要な語や文を選び出して読むことのよさに気付き, 今後の説明的文章を読む学習につなげる力

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

これまでに子供は, 教材「くちばし」で, 事柄の順序と内容等に着目しながら教材文や図鑑を読み, くちばしの特徴を捉え, くちばしクイズ作成に関する重要な語や文を選び出す学習をしてきた。また, 「じどう車くらべ」では, 問題提示の文を受けて「仕事」と「つくり」の二つの観点に着目して読み, 例示されている車を比べながら読む学習に取り組んできた。

そこで, 本単元では, 「C 読むこと ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み, 分かったことや考えたことを述べる言語活動」として「二つの動物を同じ観点で比べながら, 『動物の赤ちゃん図鑑』を作り, 友達に紹介する言語活動」を位置付ける。自分が選んだ二つの動物の赤ちゃんの違いを友達に紹介するために, ライオンとしまうまの体の特徴や成長していく様子を表す言葉等に着目して, 違いを考えながら教材文を読み, 二つの動物を比べて読むことができる「動物の赤ちゃん図鑑」の観点や内容を考えさせる。また, 友達との「学び合い」を通して, どのような観点で比べ, どんな言葉を教材文や図鑑から選び出せばよいか考えることができるようにする。

この学習は, 時間的な順序に着目し, たんぼぼの成長していく様子とそのわけなどを考えながら読む「たんぼぼのちえ」の学習につながっていく。また, 同じ観点で違いを考えながら読む学習は, 今後の読書生活にも生かすことができる。

(2) 教材について

教材「どうぶつの赤ちゃん」は, 第1段落に二つの問題提示文が示され, それに答える形でライオンとしまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子や成長していく様子を説明している文章である。「生まれたばかりの様子」は, 「体の大きさ」, 「目や耳の様子」, 「親の姿との比較」という観点で, 「成長していく様子」は, 「歩くときの様子」, 「乳を飲んでる期間」, 「自分でえさをとる時期」という観点で書かれており, 内容の大体を捉え, それぞれの観点ごとにライオンとしまうまの違いを比べて読むことに適している。また, ライオンとしまうまの生まれたばかりの様子や成長していく様子が, 子供がもっているイメージとは大きく異なっていると考えられ, それぞれの観点で違いを比べながら読む中で, 発見や驚きをもちながら意欲的に読むことができると考える。

これらのことから本教材は, 時間的な順序や事柄の順序を考えながら文章を読み, 体の大きさなどの観点で, 内容の大体を捉えるとともに, 学習した観点に沿って「動物の赤ちゃん図鑑」を作ったり, 同じ観点で二つの動物を比べたりしながら, 自分の考えを広げたり深めたりする学習に適した教材である。

(3) 子供の実態(調査日 令和元年8月1日 調査人数24人 数字は人数)

[調査1] 「内容の把握」に関する能力[説明文の内容を捉える調査問題の結果]
・ 主語と述語の関係に着目して、説明文の内容の大体を捉えることができる。(24)
・ 主語と述語の関係に着目して、説明文の内容の大体を捉えることがもう少しである。(0)
[調査2] 「精査・解釈」に関する能力[説明文の内容を的確に捉えるために重要な語を選び出す調査問題の結果]
・ 内容を的確に捉えるために必要な語を選び出すことができる。(19)
・ 内容を的確に捉えるために必要な語を選び出すことがもう少しである。(5)
[調査3] 「考えの形成」に関する能力[言語活動に合った文を考える調査問題の結果]
・ 文章の中の語に着目して、言語活動に合った文を考えることができる。(23)
・ 文章の中の語に着目して、言語活動に合った文を考えることがもう少しである。(1)
[調査4] [「自分の問い(自分のめあて)」をもつことへの意識調査の結果]
[「自分の問い」をもつ] いつもできている(20) ときどきできている(3) あまりできていない(1)
[調査5] [「学び合い」で考えを広げたり深めたりすることへの意識調査の結果]
[考えを広げる, 深める] いつもできている(15) ときどきできている(8) あまりできていない(1)
[調査6] [振り返りで学びを自覚していることへの意識調査の結果]
[学びの自覚] いつもできている(19) ときどきできている(5) あまりできていない(0)
[調査7] [学習を振り返り, 課題意識や次時のめあてをもつことへの意識調査]
[課題意識をもつ] いつもできている(22) ときどきできている(2) あまりできていない(0)

これらの実態から、本学級の子供は、説明文を読む際に、主語と述語の関係に着目して内容の大体を捉えたり、言語活動に合った重要な語や文を選んだりする力は身に付いているものの、内容を的確に捉えるために重要な語を選び出すことについては課題があると考えられる。また、自ら課題を見だし、学習を振り返り、次の学習への意欲を高めているものの、学びを自覚したり、「学び合い」を通して自分の考えを広げたり、深めたりすることに課題があると考えられる。そこで、本単元の指導に当たって次のような手立てを行うことにする。

5 指導に当たって

(1) 「自分の問い(自分のめあて)」をもたせる教師の手立て

「つかむ・見通す」過程では、教師が作成した「動物の赤ちゃん図鑑」を読んだ感想を交流させることで、「〇〇の赤ちゃん図鑑を作りたい。」という単元の学習への関心や「どんなことを、どのように書けばよいのかな。」という課題意識を高めるなど、「自分の問い(自分のめあて)」をもたせる。

(2) 「学び合い」を活性化させる教師の手立て

「調べる」過程では、時間的な順序や事柄の順序を表す言葉に着目させ、ライオンとしまの生まれたばかりの様子や成長していく様子について各自で調べさせたことをグループで交流させる。その際、生活経験と結び付けながら考えさせたり、動作化させてイメージさせたりする。そして、学んだ観点を生かして「動物の赤ちゃん図鑑①」を作る。

「深める」過程では、ライオンとしまの違いについて考えたことをホワイトボードに分類して比較させることで、二つの動物の特徴を捉え、比較する観点や観点ごとにまとめるよさに気付くことができるようにする。

(3) 学びを振り返り, 学びを価値付ける教師の手立て

「振り返る・生かす」過程では、「動物の赤ちゃん図鑑①」と「深める」過程で作成した「動物の赤ちゃん図鑑②」を紹介し合う。そして、一つの動物の場合と、二つの動物の場合を比較し、どちらの方がよいか尋ねる。二つの動物を比べて読むことで、両者の動物の違いがはっきり分かることに気付かせることで、比べて読むことのよさを実感できるようにする。さらに、「分かったこと」、「できたこと」、「変わったこと」等の観点でノートに単元の学習の振り返りを記述させ、全体で交流する。「動物の赤ちゃん図鑑が書けるようになってうれしかった。」という振り返りに対し、「なぜ、動物の赤ちゃん図鑑を書くことができたのですか。」と問うことで、「どうぶつの赤ちゃん」を読む際、ライオンとしまを同じ観点で比べて読んだこと、比べて読むことのよさに気付いたことを価値付ける。そして、二つの動物の違いがよく分かる図鑑を作ることができたのは、「どうぶつの赤ちゃん」の読みを生かして、二つの動物を選び、同じ観点で比べて書くことができたことを価値付けて、達成感を味わわせ、今後の読書生活に活用しようとする意欲を高める。

6 単元の指導計画（全10時間）

【前単元「くらべて よもう」で習得した概念的な知識】

説明文を読むときは、重要な語や文に着目して問いと答えを捉え【A】、いくつかの事例を通して事柄の順序を考えたり【B】、対比させながら書かれていることを読み取ったりする【C】ことで、内容の大体が分かる。

[] 子供の反応 [◆] 重点評価項目

過程(時)	見方・考え方	主な学習活動	知識の理解の質の高まり	教師の指導
つかむ・見通す(1)	事柄の順序・捉える	1 「動物の赤ちゃん図鑑」を作るために、単元の学習課題や学習計画について話し合う。【A, B】	ライオンとしまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子や成長していく様子について書いてある。	○ 教師が作成した「動物の赤ちゃん図鑑」と教材文を紹介することで、単元の学習への関心や課題意識をもたせる。 ◆ 「動物の赤ちゃん図鑑」を作る学習に関心をもち、課題解決への意欲を高めている。 【主体的に学習に取り組む態度：話し合い】
		2～3 ライオンの赤ちゃんの生まれたばかりの様子や成長していく様子を読み取る。【A, B】 4～5 しまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子や成長していく様子を読み取る。【A, B】	ライオンの赤ちゃんの生まれたばかりの様子や成長していく様子が分かったよ。 しまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子や成長していく様子が分かったよ。	○ 体の特徴や順序を表す言葉等に注目させることで、ライオンとしまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子や成長していく様子をそれぞれ理解できるようにする。学習した観点で図鑑を読ませることで、「動物の赤ちゃん図鑑①」を作ることができるようにする。
調べる(5)	時間的な順序や事柄の順序・捉える	6 自分が選んだ動物の「赤ちゃん図鑑①」を作る。【A, B】	目や耳、えさのとり方などが分かる図鑑を作ろう。	○ ライオンとしまうまを比べて読み、違いを考えさせることで、比べて読むことのよさを実感させ、図鑑を再考する必要性に気付かせる。
		7 ライオンとしまうまの赤ちゃんを比べて読み、その違いを考える。(本時)【C～E】	目や耳など同じポイントで比べて読むと、違いがよく分かる。だから、二つの動物を取り上げているんだ。	◆ 同じ観点で比べて読み、ライオンとしまうまの違いや二つの動物を事例として挙げた理由を考えている。 【思考・判断・表現：ワークシート、「学び合い】
深める(3)	観点・比べて考える	8 図鑑①を再考し、①の動物と比べて読むことができる違う動物を選ぶ。【C～E】	同じポイントで比べて、違いがよく分かる動物を選ぼう。	○ 学んだことを基に、二つの動物の違いが分かる「動物の赤ちゃん図鑑②」を作成させる。
		9 「動物の赤ちゃん図鑑」を再考する。【C～E】	図鑑①と比べて読んで違いを考えてもらうために、「赤ちゃん図鑑②」を作ろう。	○ 感想を共有することで、比べて読むことのよさを実感できるようにする。
振り返り・生かす(1)		10 図鑑①と図鑑②を紹介し合い、比べて読んだ感想を交流する。【C～E】	違いを考えながら読むと、動物のことがもっと分かるね。	◆ 同じ観点で比べ、違いを考えながら「動物の赤ちゃん図鑑」を作っている。 【知識・技能：動物の赤ちゃん図鑑】

【本単元で習得が期待される概念的な知識】

二つ以上の対象を比べて読むときは、時間的な順序や事柄の順序を捉えながら文章の中の重要な語や文を調べたり【D】、書き手が伝えたいことは何かを意識したり【E】することで、違いがよく分かる。

次学年単元「じゅんじょに気をつけて読もう」の学習や今後の読書生活へ

7 本 時 (7 / 10)

(1) 目 標

目や耳の様子などの体の特徴や成長していく様子を表した言葉に着目して、ライオンとしま
まの赤ちゃんを同じ観点で比べながら違いについて考えることができる。

(2) 展 開

□ 教師の言葉掛け ▭ 子供の反応 ◆ 重点評価項目

過程 (分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教 師 の 指 導
つかむ・見通す (5)	<p>1 これまでの学習を想起し、本時の学習内容について話し合う。</p> <p>教科書を読んで、どんなことをどんな順序で書けばよいか考えながら「動物の赤ちゃん図鑑」を作ることができましたね。</p> <p>あれ。わたしたちは一つの動物だけ図鑑にしたけれど、教科書は二つの動物が書いてある。二つの動物を取り上げたのは、何か理由があるのかな。</p> <p>2 本時の学習課題を立てる。</p> <p>どうして、二つの動物が書いてあるのかな。</p>	<p>○ 体の特徴などの観点に沿って、「動物の赤ちゃん図鑑①」を作成した前時までの学習を振り返らせることで、教材文との事例の数の違いについて気付かせる。</p> <p>○ 自分が作った「動物の赤ちゃん図鑑」と教材文の事例の数を比べることで、「なぜ教材文には、二つの動物の赤ちゃんが載っているのか。」「二つの動物には、どんな違いがあるのか知りたい。」などの「自分の問い（自分のめあて）」をもたせる。</p>
調べる (28)	<p>3 どうして二つの動物が書いてあるのか話し合う。</p> <p>ライオンとしままは、全然違うからじゃないかな。</p> <p>4 ライオンとしままの赤ちゃんの違いについて話し合う。 【グループや全体での「学び合い」】</p> <p>ライオンとしままは、どんな違いがあったかな。</p> <p>ライオンの赤ちゃんは、弱々しくてお母さんにあまり似ていないのに、しままの赤ちゃんは、しまの模様もすでに付いてお母さんにそっくりだよ。</p> <p>ライオンの赤ちゃんは、1年ぐらい経ってから自分で獲物を捕るのに、しままの赤ちゃんは7日ぐらいで自分で草も食べるようになるよ。全然違うね。</p> <p>違いが分かったのは、どのように読んだからなのかな。</p>	<p>○ 「動物だから同じではないかな。本当にライオンとしままは、違うのかな。」などの揺さぶりをして、「学び合い」への必要感をもたせるようにする。</p> <p>○ 二つの動物の違いを書いたカードをホワイトボード上で比べたり観点ごとに並び替えたりしながら、ライオンとしままの違いについてグループで話し合うようにする。</p> <p>○ 全体での「学び合い」では、グループの考えを交流しながら、どのグループも同じ観点到に沿ってライオンとしままを比べていることに気付かせる。</p> <p>◆ 体の大きさ、目や耳の様子など同じ観点でライオンとしままの赤ちゃんを比べて読んでいる。 【思考・判断・表現：カード、「学び合い」】</p>
深める (7)	<p>体の大きさ、目や耳の様子、親と似ているか、歩くときの様子、えさのとり方など同じポイントで比べたから違いが分かった。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、学びを自覚する。</p> <p>二つの動物が書いてあると、同じポイントで比べて読むことができて、二つの動物の違いがよく分かるから。</p>	<p>○ 「ライオンとしままの違いがよく分かった。」という振り返りに対し、その理由を問うことで、目や耳の様子などの同じ観点で比べて読むことのよさに気付かせ、二つの動物の赤ちゃんの違いについて考えることができたことを価値付ける。</p>
生振りかき返す・振り返る (5)	<p>6 学びを自覚し、新たな学習課題を見いだす。</p> <p>今日の学習で分かったことは何ですか。この次の時間は何がしたいですか。</p> <p>比べて読むと違いが分かったので、「動物の赤ちゃん図鑑」を作り足したい。</p>	<p>○ 二つの事例が同じ観点で書かれているから比べて読むことができたことに気付かせ、二つの動物を取り上げた筆者の意図に気付くことができるようにする。</p>

「自分の問い(自分のめあて)」

「学び合い」の活性化

学びの振り返りと価値付け

